

松田さんの絵は上下はどちらでも構わない？

「どちらが上で、どちらが下なんですか？」10年以上前に遡りますが、絵画の作品をたくさん抱えながら来社くださった松田静心さんにお伺いしました。広い大地にも見えるし、透き通った空にも見える。そのような作品でした。

勉強会でご一緒させていただいた松田さんから、ご自身の作品をシブサワ・アンド・カンパニー株式会社およびコモンズ投信株式会社で展示させてくれないか、というご依頼をいただき、小さな殺風景なオフィスだったので、喜んで快諾いたしました。それらを壁にご自身自らかけてくださるという時でした。

「どちらでも良いんです。お気に入りの方で。」と松田さんは、ちょっぴり恥ずかしそうに笑顔で返していただきました。

その日から、松田さんの作品は、我々のオフィス空間の一体となり、来客される方々がお帰りの際に「これは何方の作品ですか？」と声をかけていただく事も時々有り、声にしなくても、多くの方々が松田さんの作品に魅かれていることは間違いないです。

私の様な芸術の教養がない者がアートの意味について評価することは本当におこがましい事ですが、特に現代的な表現に「わかんない」という声も少なくないと思います。ただ、私は現代アートとは見えなかった価値を可視化させる力があると感じています。そのアートの存在がそこにあることで、それまで見えなかったことの「フレーミング」が生じると言えるかもしれません。

現代アートを鑑賞すると「わかんない」という問いが生じることが少なくないと思います。ただ、これは重要なことだと考えます。「わかんない」存在に直面したときに人間は、そこから何か意味を見出そうとするからです。イマジネーションが刺激され、それまで見えていなかった何が可視化できるかもしれません。

私は投資の業に携わっています。この「フレーミング」という概念に、数値化が難しい企業の非財務的な見えない価値の可視化のヒントがあるようにも思います。見えない価値の正しい「答え」を定めることは困難ですが、「わかんない」ことに啓発されて「問い」を繰り返すことがとても大事です。

今回の松田さんの作品を鑑賞しながら新たな問いが生まれました。私が松田さんと知り合った頃の作品の多くは二単色で描かれていたものが多かったです。二色だけでも、奥深さを感じることができたという作品の特徴がありました。

今回のシリーズでは松田さんの作品の特徴でもある境界線がはっきりと描かれているものの、一方では様々な色が飛び散っている、今まで私が拝見したことの無い松田さんの表現です。

ご本人からは「ラブソディ」と解説していただいています。確かに様々な組み合わせのコラージュ

ユが、上下左右も無い自由奔放なカラーで描かれています。私が見えたのは大地の地中のマグマです。

このマグマとは何か。この3年間のコロナ禍で松田さんが感じ取った、環境問題、社会格差、地政学などの変動が松田さんの心を揺さぶったのか。

また、作品は火山灰を使って制作されています。

境界線の向こう側は透き通った単色な表現。どちら側が環境で、どちら側が自分たちの中にある心境なのでしょうか。

こんなことを聞いても松田さんの答えは決まっています。「どちらでも良いですよ」。

上下左右も無関係に自由奔放に見て感じてください、という松田さんのやさしいお気持ちの表しです。

10年以上前にオフィスに作品を壁にかけていただいたときの松田さんを思い出します。「どちらでも良いんです。お気に入りの方で。」そうおっしゃりながらも、きちんと今の形の上下の表現で壁にかけていただいたことを。

シブサワ・アンド・カンパニー 株式会社 代表取締役

コモンズ投信株式会社 取締役会長

渋谷 健

渋谷栄一の玄孫にあたる